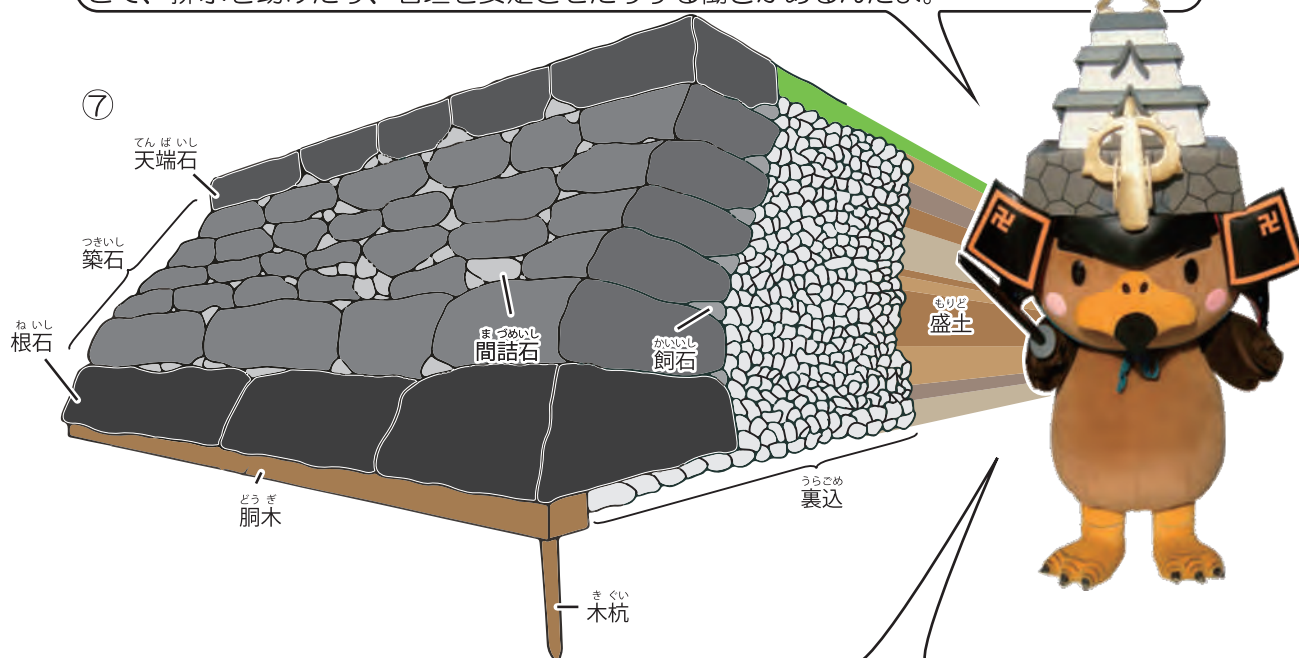


石垣はどのように作られているのでしょうか

⑦築石の中で一番下になる石を根石、一番上を天端石というんだ。
築石と築石のすきまにつめる石を間詰石、築石を積むときに横や後ろにはさんで石の角度を調整する石を飼石というんだよ。裏込は、盛土と築石の間に詰め込む玉石の層のことで、排水を助けたり、石垣を安定させたりする働きがあるんだよ。



江戸時代の人々が石垣を築く時は、木杭や胴木で基礎を作ってから石を積んだんだよ。でも弘前城では、いまのところ胴木や木杭は見つかっていないんだ。

石垣修理のスケジュール

[平成27年度]

- ◆8月16日～10月 弘前城天守曳屋
- ◆9月20日～27日 曳屋ウィーク

人力による曳屋を体験するイベントを開催します。

[平成28年度～]

- ◆弘前城天守を移動先で公開します。
- ◆石垣解体工事着手（秋頃）

石垣を解体する前に、石に番号を付けて記録をとります。その作業が終わったら、いよいよ石垣の解体を始めます。

はじめに修理範囲全体の石垣を解体し、積み直しは2工区に分けて、天守台付近から行う予定です。天守台の石垣が完成し次第、天守を元の位置に戻し、残りの石垣の積み直しを行います。

[平成33年度]

- ◆弘前城天守を元の位置に戻す予定です。

[平成35年度]

- ◆石垣修理工事完了予定



ひろさき応援寄付金（ふるさと納税）

【特別コース】弘前城天守が動く！世紀の大修理～石垣普請応援コース～

詳しくはこちら→<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/seido/hirosakiouenn-hurusato.html>

弘前市 ふるさと納税

検索

【発行】青森県弘前市都市環境部公園緑地課弘前城整備活用推進室 〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1 TEL：0172-33-8739

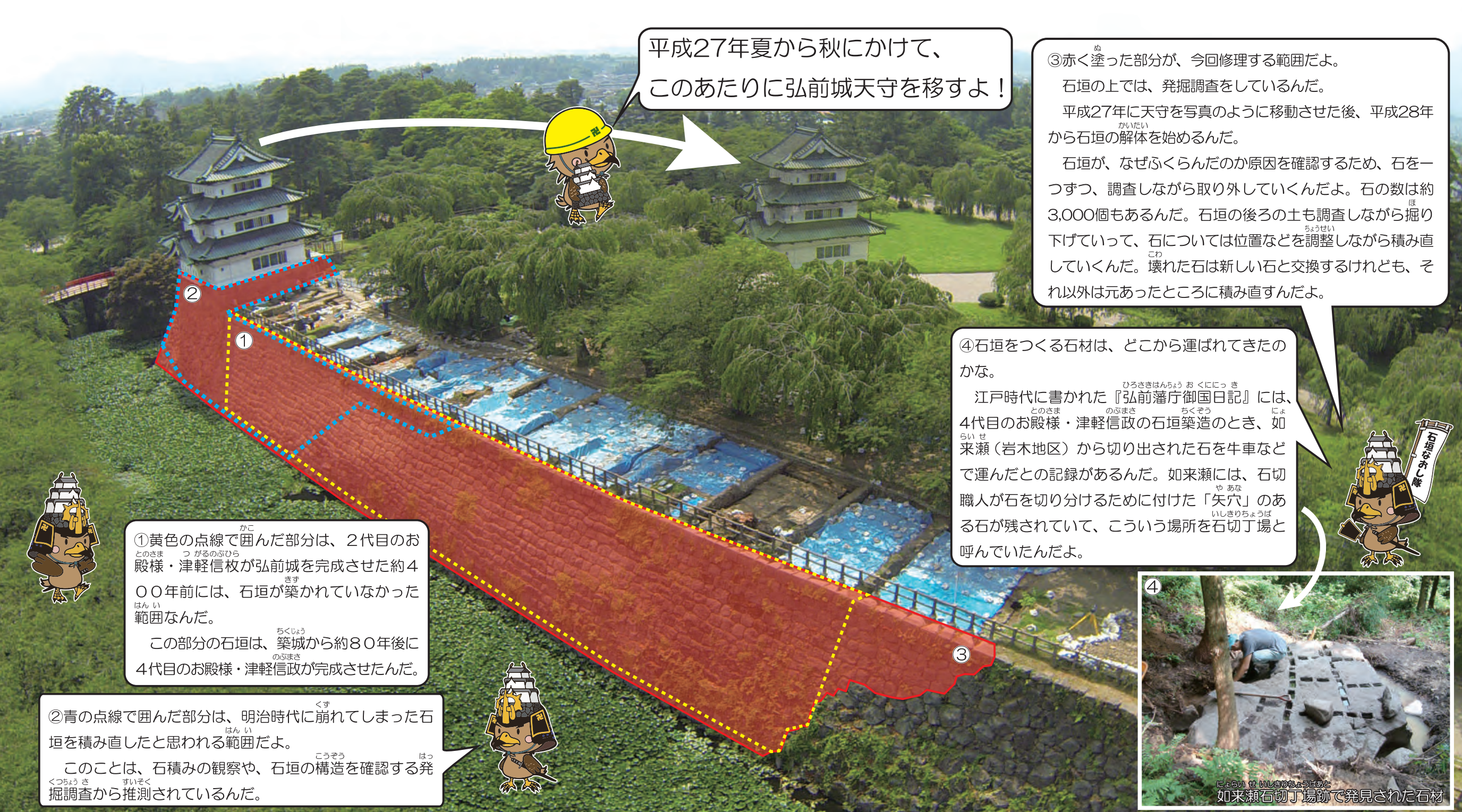
2015 弘前公園開園 120 周年

弘前城本丸石垣修理

ひろさきじょうほんまるいしがきしゅうり

弘前城天守の下から北側に長く続く石垣にはふくらみが確認されており、崩れる危険性があることから、約100年ぶりに天守を曳屋して修理工事を始めています。

たか丸くん
（石垣修理バージョン）



平成27年夏から秋にかけて、
このあたりに弘前城天守を移すよ！

③赤く塗った部分が、今回修理する範囲だよ。
石垣の上では、発掘調査をしているんだ。
平成27年に天守を写真のように移動させた後、平成28年から石垣の解体を始めるんだ。
石垣が、なぜふくらんだのか原因を確認するため、石を一つずつ、調査しながら取り外していくんだよ。石の数は約3,000個もあるんだ。石垣の後ろの土も調査しながら掘り下げていって、石については位置などを調整しながら積み直していくんだ。壊れた石は新しい石と交換するけれども、それ以外は元あったところに積み直すんだよ。

④石垣をつくる石材は、どこから運ばれてきたのかな。
江戸時代に書かれた『弘前藩庁御国日記』には、4代目のお殿様・津軽信政の石垣築造のとき、如来瀬（岩木地区）から切り出された石を牛車などで運んだとの記録があるんだ。如来瀬には、石切職人が石を切り分けるために付けた「矢穴」のある石が残されていて、こういう場所を石切丁場と呼んでいたんだよ。

①黄色の点線で囲んだ部分は、2代目のお殿様・津軽信成が弘前城を完成させた約400年前には、石垣が築かれていなかった範囲なんだ。
この部分の石垣は、築城から約80年後に4代目のお殿様・津軽信政が完成させたんだ。

②青の点線で囲んだ部分は、明治時代に崩れてしまった石垣を積み直したと思われる範囲だよ。
このことは、石積みの観察や、石垣の構造を確認する発掘調査から推測されているんだ。



⑤明治時代初めごろの写真だよ。今では見ることのできない本丸御殿や土塀が写っているね。
これらの建物は明治時代に壊れてしまって、今は残っていないんだ。そのあと、城跡が公園として整備されていったんだよ。

⑥明治時代から大正時代になるころの写真だよ。左側の石垣が崩れているね。お城は明治30年（1897）に奥に移動しているんだ。お城を解体しないで、そのまま移動しているんだよ。このような工事を曳屋というんだ。

